

広島大学地区およびイーストカロライナ大学地区での活動と交流

広島地区・ECU地区コーディネータ

広島大学教育学部 助教授 神山 貴 弥

(1) はじめに

1999年5月から3カ年計画でスタートしたグローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト(Global Partnership Schools Project: GPSP)において、今回の米国ノースカロライナ州の訪問に限らず、いずれの活動も本年度(1999年度)が初年度の活動ということになる。そこで、ここでは私が本プロジェクトのコーディネータとして関わってきた広島大学地区およびイーストカロライナ大学(East Carolina University: ECU)地区で、GPSPを推進するにあたってどのような活動ならびに交流が行われてきたかを報告する。

(2) 広島大学地区での組織づくり

広島大学学校教育学部(2000年4月より同大学教育学部と統合し、現在では教育学部として一本化されている)とECU教育学部は、以前より学部間協定を締結しており、研究者間あるいは学生間の共同研究・交流が行われていた。従って今回のGPSPについても、ECUのドン・スペンス教授より、プロジェクトの実施に向けて資金援助を財団等に申請している旨の連絡は受けていたが、本学部へ米日財団からの助成が得られたことが知らされたのは1999年4月半であった。また同年6月には米国側から派遣される教員の受入が必要なこともこの時点で判明し、早急にGPSPに参画するための組織づくりが求められた。

そこで当時の学校教育学部国際交流委員会のメンバーを中心とした以下の研究会を発足させた(1999年5月18日)。

名称：広島グローバル・パートナーシップ・スクール研究会

組織：会長 小篠 敏明

顧問研究員 濱口 脩、鳥越 兼治、
小原 友行

専門研究員 深澤 清治、朝倉 淳、
神山 貴弥

研究員の役割：会長および顧問研究員は、プロジェ

クト全体の進行に目を配り、必要に応じてアドバイス等を行う。プロジェクト推進の実務は専門研究員があたる。専門研究員の実務分担は、概ね以下に示すものとする。

- ・米側大学関係者との折衝、英文報告書の作成等に関する実務 ー 深澤
- ・派遣・受け入れ時の各学校、教育委員会等との交渉に関する実務 ー 朝倉
- ・日本側大学関係者との折衝に関する実務ならびに研究会内事務 ー 神山

以下報告するとおり、1999年度にはGPSPに関わり米国教員の受入・日本教員の派遣に携わってきたが、広島大学地区においてはこのような組織づくりが早急に行われたこと、また組織がうまく機能したことが、GPSP推進の成果に結びついたと思われる。

(3) 1999年度米国教員の受入

6月15日から29日の日程で米国教員が日本に派遣され、そのうち6月21日から26日の期間において各大学(大阪教育大学、鳴門教育大学、広島大学)地区での研修(各地区、米國小中高教員計7名、米大学コーディネータ1名)、27日に広島地区で米側参加者全員によるサマリー・ミーティングが行われた。

① 受入校の決定過程

研究会発足から米国教員受入までの期間が非常に短かったこともあり、小中学校については学部と日頃からつながりの強い広島大学附属東雲小・中学校、同三原小・中学校に教員の受入を依頼した。高校については、ノースカロライナ州ECU地区での教員経験をされた先生がおられる広島県立祇園北高校に受入を依頼した。いずれの学校も、依頼から受入までの期間が十分でない中、またプロジェクト初年度ということでもなかなか受入期間中の見通しが立ちにくい中、受入について快諾をいただいた。

② 広島大学地区での受入期間のスケジュール

21日(月) 広島大学訪問(学校教育学部長表敬訪問

と各学校訪問についてのオリエンテーション)：広島大学地区参加者全員

22日(火) 附属三原幼稚園・小学校・中学校を広島大学参加者全員で訪問

地区ウェルカムパーティ(米国地区参加者、三原学園関係者、大学関係者)

23日(水)・24日(木) 計7名の米側教員がそれぞれの受入校を訪問

附属東雲小学校(Roxana Robeles-Cox)

附属東雲中学校(Polly Crabtree)

附属三原小学校(Patricia Phillips)

附属三原中学校(Barbara Hurn and Marshall Mattoson)

広島県立祇園北高等学校

(Lou Cannon and Bob Phillips)

25日(金) 附属東雲中学校の公開研究会に参加：広島大学地区参加者全員

地区フェアウェルパーティー(米国地区参加者、大学関係者)

26日(土) 文化体験

27日(日) サマリー・ミーティング：米国参加者全員
全体でのフェアウェルパーティ(米国全参加者、受入校関係者、大学関係者)

③ 受入に関わる要望と反省

今回の受入を通して、広島グローバル・パートナーシップ・スクール研究会として以下に示すような要望、反省をまとめた。

○プロジェクト全体推進に関する要望

ア) 全体の進め方について

- ・今回は時間がなかったのでやむをえない部分もあるが、日程や来日教員の情報をもっと早く文書化した上で知らせてほしい。
- ・日米合わせて計6大学の事情を考慮しながら進めていく難しさはわかるが、ある程度確立した意志決定過程が必要である。
- ・全体のバランスもあると思うが、今回の米側教員の来日で学校間の関係がスタートしたところについては、継続性を考えて次回の訪米時に関係校を訪れるよう配慮してほしい。

イ) 派遣教員について

- ・来日教員の情報量にばらつきがあったが、ウェスタン・カロライナ大学からの派遣教員につけられ

ていたくらいの情報量は必要である。

- ・大学間で派遣教員情報に関する共通のフレームワークが必要である。
- ・今後姉妹校関係を模索していくことを考えると、同一年度に同一校からの複数の教員の派遣は望ましくない。

○広島大学地区反省

- ・受け入れしてもらうのに派遣教員のもっと詳細な情報が必要であった。
- ・授業観察時の態度や通訳者に対する接し方をはじめ日本でのマナーなどを、グループでの最初のオリエンテーションの時に指導すべきであった。
- ・通訳者に対しても事前に派遣教員の情報を知らせておくべきであった。
- ・米側教員が自分の学校や生徒を紹介するもの(ビデオテープ等)を持っていれば、日本の子どもと米国人教師という交流だけでなく、もっと幅広い交流ができた。

(4) 1999年度日本教員の派遣

2000年3月24日から4月6日の日程で日本教員が米国に派遣され、そのうち3月25日から4月2日の期間において各大学(イーストカロライナ大学、ノースカロライナ大学ウィルミントン校、ウェスタンカロライナ大学)地区での研修(各地区、日本小中高教員計7名、日本側大学コーディネータ1名)、4月3日から4日に全体での教育施設訪問やサマリー・ミーティングが行われた。

① 派遣校・派遣教員の決定過程

1999年8月に米国への派遣校・派遣教員の募集計画を、広島グローバル・パートナーシップ・スクール研究会として立てた。その際、米国教員を受入れているので交流が始めやすいという経緯から、広島大学附属東雲小・中学校、同三原小・中学校から各1名、合計4名の派遣教員を募集することにした。また東広島市教育委員会に依頼し小学校もしくは中学校から1校・1名、計1名、広島県教育委員会に依頼し県立の高等学校から2校・各1名、計2名、合計3名を派遣教員として募集することにした。

同年9月に募集計画に基づき募集をかけ、同年10月末までに派遣校・派遣教員を決定した。東広島市教育委員会からは同市立御園宇小学校が、広島県教育委員

会からは同県立祇園北高等学校、同県立広島井口高等学校が派遣校として決定され、各学校より1名の派遣者が推薦された。

②広島大学地区の派遣事前学習会・事後学習会

広島大学地区で行われたGPSP事前学習会・事後学習会の日程およびその主な内容は以下の通りであった。

第1回事前学習会 1999年12月4日

- 1) 参加者自己紹介・学校紹介、2) プロジェクトの概要説明、3) 現在までのプロジェクト進行状況、4) 事前準備事項(研究課題・学校紹介等)の説明、等

第2回事前学習会 2000年1月29日

- 1) 日本の学校教育の概要について、2) 学校紹介について(参加者間で検討)、3) 研究課題について(参加者間で検討)、3) 派遣に関する情報提供・諸連絡、等

第3回事前学習会 2000年3月11日

- 1) 研究報告書の作成について、2) 進捗状況の報告と書類の作成、3) 派遣に関する情報提供・諸連絡、等

事後学習会 2000年5月20日

- 1) 研究報告書(案)等についての交流、2) 第2回米国教員受入についての説明と協議

③ ECU地区での派遣期間のスケジュール

3月26日(日) グリーンビル市内の散策

Dr. Hudgins宅でのガーデン・パーティ

27日(月) Rose HS, Martin MS, Wahl Coates

ESの各学校訪問

ECU教育学部学部長表敬訪問

ECU副学長表敬訪問:いずれもECU

地区参加者全員

Reflection Meeting

28日(火) - 31日(金)

計7名の日本教員が各受入校を訪問

Wahl Coates ES(半直哉、松田博

美)

Martin MS(木本一成、近藤博之、福田正尚)

Rose HS(江草章仁)

New Bern HS(山下雅)

Reflection Meeting

31日(金) レセプション・パーティ

4月1日(土) - 2日(日)

文化体験、歴史施設訪問

④ ECU地区での交流・活動について

ECU地区においても他大学地区同様に、各受入校、受入担当者から歓待を受け、充実した研修が行われた。その成果は各参加者がまとめた報告書が示すとおりであり、ここでは割愛するが、報告書には表れていない部分で特筆すべきは、各学校訪問後に行われたReflection Meetingが毎日、非常に熱心に行われた点であった。日米の学校間の相違や米国の小・中・高校間の相違、等が今回の学校訪問での観察から、あるいはこれまでの米国学校滞在経験から指摘され、広く学校教育のあり方について相互に刺激しながら議論が深められたように思う。またその成果が全体で行ったサマリー・ミーティングでの報告にもうまく反映された。

(5) おわりに

以上、主に本年度(1999年度)にGPSPとして行われた米国教員の受入、日本教員の派遣がどのように進められたのかを広島大学地区、ECU地区の活動および交流を通してみてきた。GPSPの目的は、こうした相互訪問による交流を通して、日米の児童・生徒間、教員間、あるいは学校間の定期的・恒常的な交流を促進し、日米双方ひいては世界の国々に対する相互理解を高めることであるが、一方で、こうした交流を促進する一つのモデルを形成することもその大きな役割である。本年度の経験に基づき、今後2年間のGPSPの充実を願うとともに、こうした国際交流モデルの完成を祈るところである。

遙かなるグリーンビル

奈良県生駒郡三郷町立三郷北小学校 教諭 松田博美

はじめに

今回のウォール・コーツ（以後WC）小学校訪問にあたって、2つの取り組みを予定していました。一つは今後予定されている姉妹校提携のタイムスケジュールを相談してくる。特に児童・職員との交流を図り今後のさらなる交流の方法を相談してくる。（テレビ会議等の提案をし、そのための設備の視察）。もう一つは、総合学習（国際理解教育も含む）の展開について意見交換をしていく。この2点でした。しかし、姉妹校提携については2000年6月にWC小学校から副校長が来日され、三郷北小学校において姉妹校提携書にサインし交換しました。教師間の交流もインターネット等を利用してすでに進んでいます。また、総合学習の交流についても、WC小学校で意見交換まで至りませんでした。言葉の壁も若干ありました。通訳の方には、充分すぎるぐらいお世話になりました。WC側がなるべくたくさん学級を見てくれということで参観が小刻な予定になっていました。一つのテーマに絞った交流ができませんでした。でも、多くの学級を見せていただき、収穫は多かったです。ですから、この報告書を書くにあたって、自分が予定していた課題に沿って報告すべきだとは思いましたが、私の目に映ったWC小学校という視点で、書かせてもらうことにしました。

グリーンビルへ

関西空港を飛び立ってから10数時間、デトロイト経由で、やっとノースカロライナ州、州都ラレーの国際空港につきました。夕闇迫る高速道路を一路グリーンビルへ。

2日目は、一日休養日。朝から晴天でした。朝食後、少し町を散策しました。道路が広い以外が日本の郊外のニュータウンの町並みでした。

WC小学校はECUのちかくにあり、全校約500人規模の学校です。職員は約80名、幼稚園から、5年生まで在籍しています。昨年大きな洪水に見舞われ、運動場を取り巻く灌木に1メートル以上も水がきた跡が黒く

残っていました。

WAHLY COATES SAYS

1. Be kind and considerate.
2. Do as you are asked!
3. Respect others and their personal space
4. Walk
5. Use a quiet voice

教室

教室は日本の学校の教室2つ分ぐらいの大きさで必ずしも四角形ではなくて（校舎見取り図参照）天井も低くて窓も一カ所。職員室がないので先生の机や教材教具が室内におかれ、子どもたちの学習の場と混在していました。子どもたちの机もそれぞれの学級で自由に並べられていて、担任の先生の工夫が見られます。先生の教室移動がほとんどないので、壁面はいろんなものが張ってあって、その先生の主張、もしくは学習を進めるテーマのようなものが感じ取れました。（時々移動の時などはたいへんなようです。）授業がOHPが多用され、ほとんどの掲示物がラミネート加工されています。何度も書き込めたり、壁に貼ったり、映したりと、素早くできるようになっています。教室には先生のほか、助手、ボランティア、教育実習生がおり複数の先生がいます。職員室のようなものではなくて先生は教室に来て、教室から帰ります。

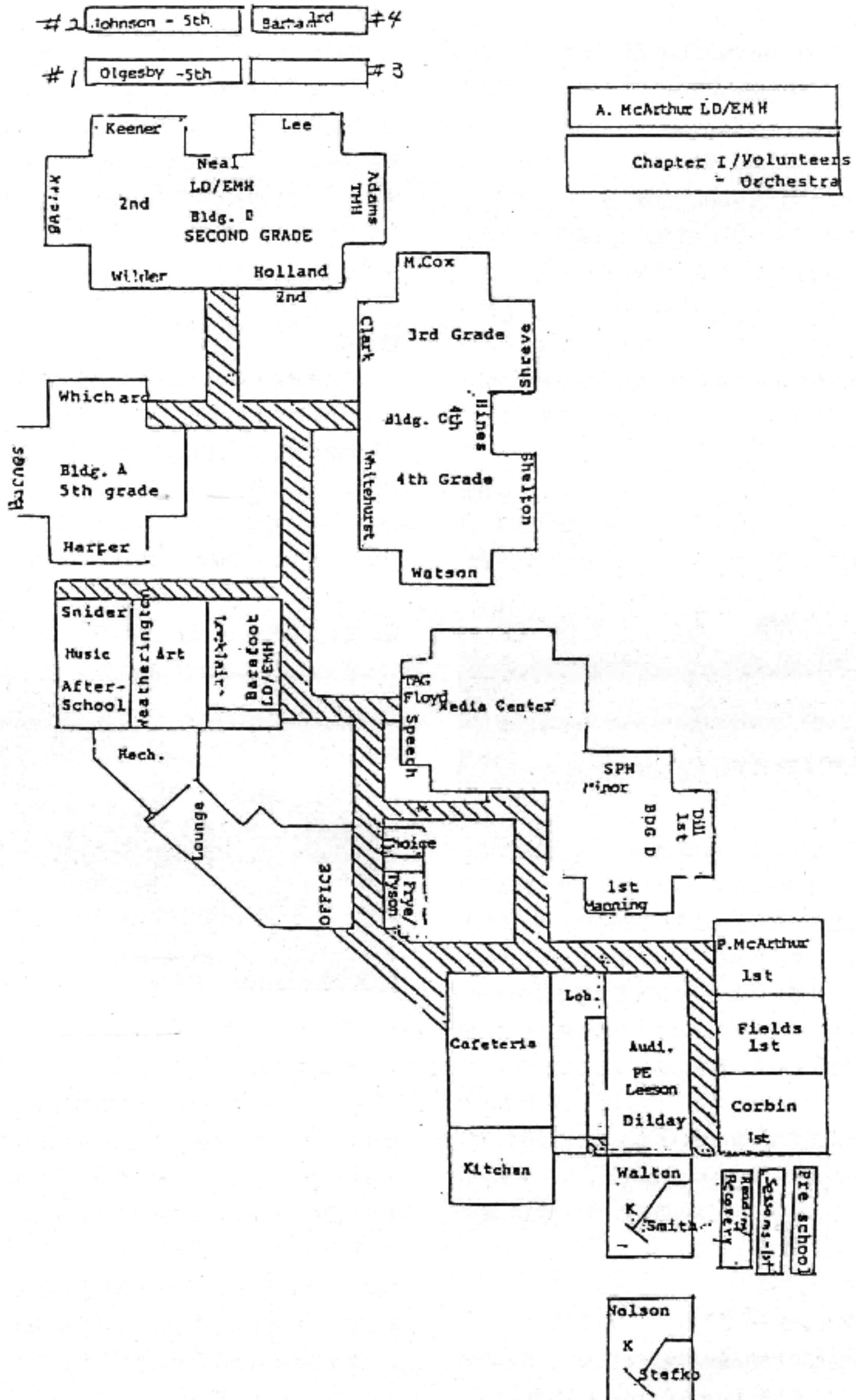
児童

スクールバスでほとんどの子が登校してきます。あとは保護者が車で送ってきます。歩いて登校する子は少ないです。先生もここで出迎えます。朝、登校すると、教室に行きます。全校放送で国旗への忠誠の言葉を唱和します。

The Pledge of Allegiance

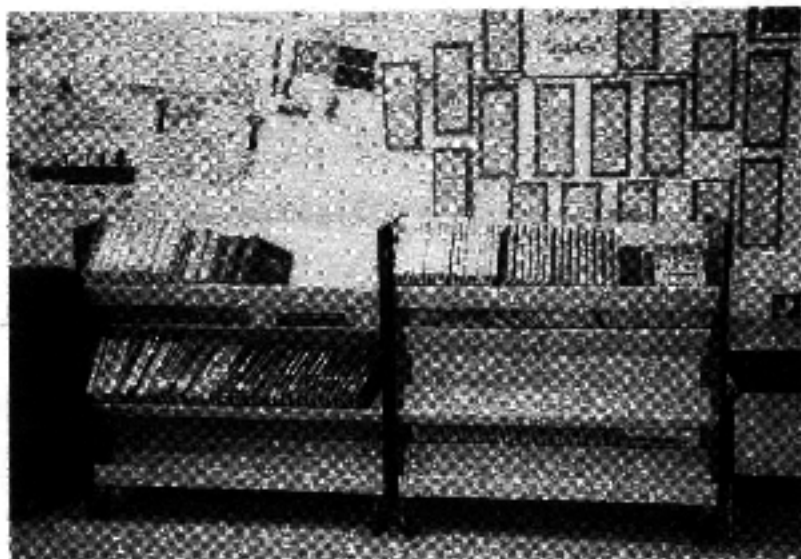
"I pledge allegiance to the flag of the United State of America and to the Republic for which it stands, one

校舎見取り図



Nation under God, indivisible, with Liberty and Justice for all. ”

子どもたちも教室で起立して唱和します。そして一日が始まります。チャイムはありません。時間割は音楽・体育・美術など選択科目になっていて専科の先生の授業となっています。教室移動などは必ず先生が前と後ろについて一列に並んで移動します。児童だけで勝手に移動することはありません。授業時間中も資料を取りに図書館などへ行きますが、そのときも先生のメモを持って行きます。教科書は貸与です。厚表紙の分厚くて重い本です。とても何冊ももって帰ることはできません裏表紙に名前を書くところがあって、使った人が誰か分かります。教室の中や廊下に並べておいてあります。



昼ご飯も食堂で食べますが、席が空くまで並んで待っています。とにかくマナーはよいです。食べ物は自由に選べたり買ったりできます。午後の授業も昼食後すぐに始まります。授業終了後は教室から玄関まで移動して、バスや迎えに来ている保護者の車で家に帰ります。先生もバスまで送り届けてそのまま帰ります。ですから、子どもたちが自由に遊んでいる姿を見かけなかったです。三郷北小のビデオを見て、朝、授業が始まるまでに運動場で遊んでいる姿を見て、誰が監督しているのかと真っ先に尋ねられました。アメリカの学校では、子どもたちが先生の監督なしに、自由に遊ぶことは考えられないそうです。

メディアセンター

WC 小学校の教育活動の中心的存在です。日本の学校でいう図書室と視聴覚室を合わせたような教室です。そこには、メディア主任がいて、構内のあらゆる視聴

覚機器・コンピュータの管理運営をしています。具体的に言いますと、どこかの学級もしくは先生がビデオを使うとします。すると、メディア主任に連絡が行き、その主任がすべて用意します。また、センターにも主任を始めスタッフが複数でおられ、子どもたちのよき助言者になっておられました。パソコン教室もこの一角に設置されていて、子どもたちが学習していました。また、センターの入り口近くに選ばれた子どもたちの教室（英才教育?）も設置されていて週に何回か特別なカリキュラムの授業が行われていました。

歓迎式

ジム（体育館）において、全校生徒が出席して歓迎会をしていただきました。一人一人が紹介され、こちらも簡単な英語で、挨拶しました。全校集会というものがなくて、全校生徒が一同に会するのはひさしぶりだそうです。昨年三郷北にこられた、コーベン先生・ウエザリントン先生が中心になって進めていました。

入り口のホールの所に三郷北の子どもたちの描いた絵が掲示してありました。



ソーラシステム

3年生の理科の時間です。当初環境教育の取り組みと聞いていたので、てっきり、太陽熱利用のことだと思っていました。ところが授業が進むうちに、それが大きな間違いであることに気づきました。

太陽がでてきて、次に火星、木星……と順にそれぞれの星の絵を描いた、プレートを首からかけた児童が歌を歌いながらでてくるではありませんか。そうです。ソーラシステムは太陽系のことだったんです。このことがわかってからは笑いをこらえるのが精一杯で、当初げんげんな顔をされていた、担任の先生の顔が浮かん



できました。

ジェームス先生登場

何か予感がしていたのですが、浴衣を着ての予想通りの姿で登場でした。授業は国際交流でした。授業内容は通訳の人がいてなくてよくわかりませんでした。そのおかげとってはなんですが、よい友達が1人と一家族できました。とにかく、ジェームスさんは日本通でそろばんを持ち出しての授業が始まりました。でも内容は中国の学習でしたが全体の流れがよくわかりませんでした。どうやら導入に使うそろばんの扱いをみんなが困っている中で、1人手際よくバチバチと音を鳴らしている子がいます。2週間前に日本から引越してきたという墨岡さんの登場です。この子を通訳代わりに授業参観です。ジェームス先生が壁に貼ってある日本の説明をしてくれるのですがよくわかりません。しかし、そこは同業者同士、こちらが何となく意味が分かるどころや、身振り、手振り、辞典あり、何でもありの消化不良の時間でした。帰りに墨岡さんのお母さんが来られ、通訳を頼むこととなります。ジェームスさんの登場といい、墨岡さんと知り会えたことなど、授業そっちのけの充実した1時間でした。

きらきらぼし

校舎内を歩いていると、どこからか聞き慣れたバイオリンの調べが聞こえてきます。次の参観は、この音の鳴っている方へ案内されました。音楽の時間です。(高学年の選択。音楽専科の先生)あまり広くない教室に入ると、約50人位の児童が全員バイオリンを持って弾いています。バイオリンは郡の教育委員会が貸してくれます。維持管理がたいへんなようです。転校間も

ない墨岡さんもみんなと一緒に弾いています。そうそうどこかで聞いたことのある曲は「きらきら星」でした。たいへん難しい楽器だと思うのですか、みんな簡単に弾いています。これは驚きです。



FIRST THURSDAY CLUB (日本クラブ)

V・ウエザリントン先生たちが中心になって、日本の文化を学ぶ活動が週に一度放課後の行われています。習字、日本語会話、歌、日本紹介ビデオなどの活動を行っています。私の持ってきた三郷北小のビデオも紹介しました。

やっぱり難しいよ

3年生は算数の授業でした。2けた÷1けたのわり算です。写真のように割る数が割られる数の中にいくつ分あるかを考えて計算しています。教室には日本の九九に代わる表が張ってありますが、九九がないのでそれに代わる数え歌を作ったりしてそれぞれ担任の先生が工夫していました。



スクールカウンセラー

日本の小学校と大きく違う点が、2人のスクールカウンセラーがおられる点だと思います。校門の近くに独立した部屋を持ち、そこにはナースもおられます。

日本の保健室のような感じです。カウンセラーの仕事は多岐にわたり子どもの指導をします。これには少し付け加えが必要で、アメリカの学校では学校での職員の仕事が細分化されていて、極端なことを言えば教諭は学習指導をするだけで、生活指導はスクールカウンセラーと役割分担されています。ですから、時には怒り役にもなるわけです。家庭の問題の相談役。クラスの問題、モラルの学習。人種差別の問題、課題は多いです。

最後に

幼稚園から自分の好きなことをみんなに話す時間があり、友達の話をもみな静かに聞く態度ができています。各学年を通じてこのような時間を大切にしています。幼稚園から話す、聞く態度を育てることを大切にしていることがよくわかりました。まだまだいっぱい

参観させていただいたところがあるのですが、書き始めるときりがないので一応ペンを置きます。紹介した写真もたくさんあります。スクールバスに子どもたちと一緒に乗ったこと、にぎやかでした。ホールでの昼食。職員休憩室の前の廊下にmost kissable lips please voteの掲示物。これにはおどろきました。ECUでのコンサート。レセプション、ホームパーティ等。

また、WC小学校での1週間を通して、通訳をしていただいた潮崎さんにも無理を聞いていただき感謝の気持ちでいっぱいです。最後になりましたが、この取り組みをコーディネートしていただいた、米川先生をはじめ、日米の大学関係者の皆様、また、2週間一緒に過ごさせていただいた各地域の先生、WC小学校の先生、本当にお世話になりました。ありがとうございました。